

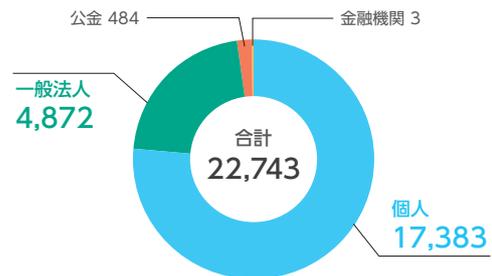
〈 資産・負債の状況 〉

預金積金

預金積金残高は普通預金などを中心に増加し、前期比376億円増加の2兆2,743億円(増加率1.68%)となりました。個人・法人のお客さまから広く預金積金をお預かりしています。



▼ 預金者別内訳 (2023年3月末、単位:億円)

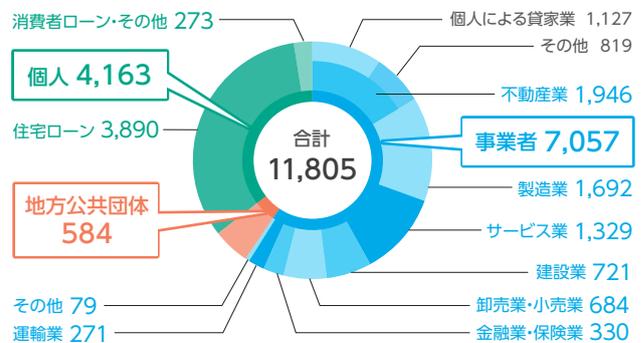


貸出金

貸出金残高は、事業者向け、個人向け貸出ともに増加し、前期比312億円増加の1兆1,805億円(増加率2.72%)となりました。地域のさまざまな業種の皆さまの資金需要に積極的にお応えしています。



▼ 業種別貸出金残高 (2023年3月末、単位:億円)

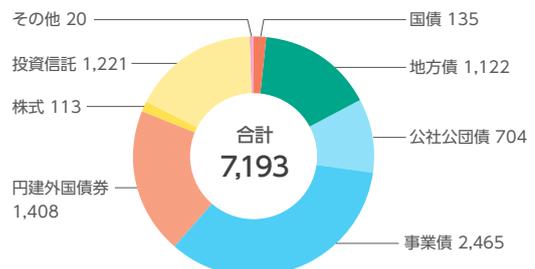


有価証券

国債、地方債、格付の高い社債や外国債券などの債券を中心に運用していますが、国内外の金利上昇により評価損の発生した投資信託を解約するなど、リスク抑制的な運用を行った結果、有価証券の残高は、前期比739億円減少の7,193億円となりました。



▼ 有価証券の内訳 (2023年3月末、単位:億円)



〈 損益の状況 〉

業務純益・コア業務純益

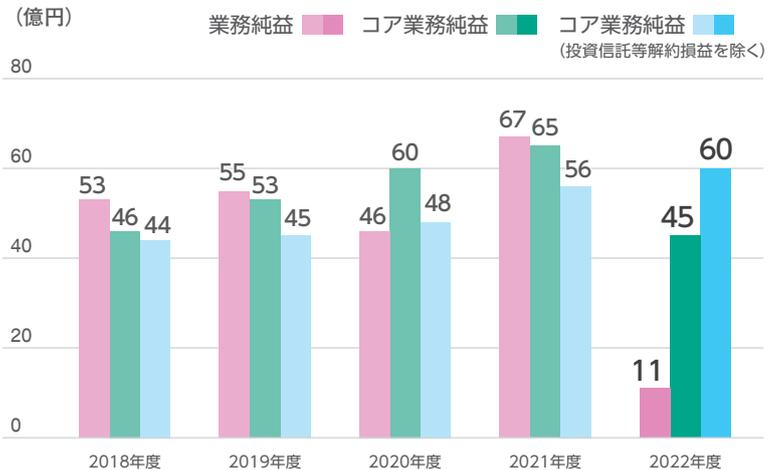
役員取引等利益の増加などにより、本業での収益力を表す指標であるコア業務純益(投資信託等解約損益を除く)は、前期比4億円増加の60億円となりました。

一方で、国内外金利の上昇により、有価証券関係損益が大きくマイナスになったことなどが影響し、業務純益は前期比56億円減少の11億円となりました。

参考

業務純益：融資など基本的業務に係る利益です。

コア業務純益：業務純益から、一時的な変動要因(一般貸倒引当金繰入額および国債等債券関係損益)を除いたものです。



経常利益・当期純利益

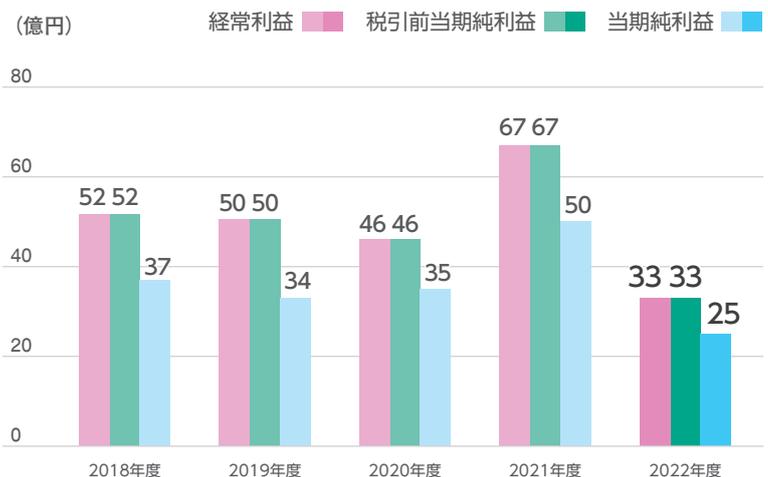
株式売買などに伴う利益増加や、不良債権処理費用の減少などがありましたが、業務純益減少の影響により、経常利益は前期比34億円減少の33億円、税引前当期純利益は前期比34億円減少の33億円、当期純利益は前期比24億円減少の25億円となりました。

最終利益である当期純利益の大部分が利益剰余金として積み立てられ、当金庫の自己資本の充実につながっています。

参考

経常利益：通常の営業活動からの利益です。経常的な収益力を見る上で重要な利益です。

当期純利益：経常利益に特別利益と特別損失を加減し、法人税などを控除した利益です。最終利益ともいいます。



業績ハイライト

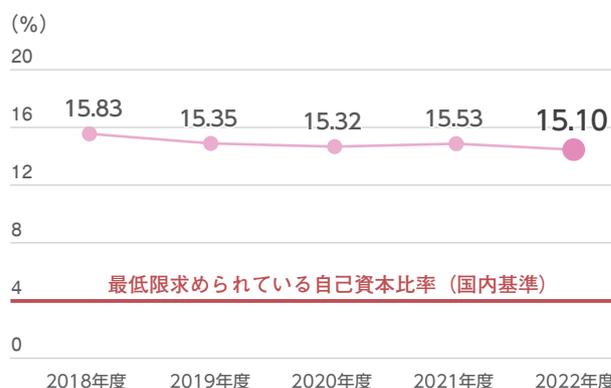
〈 経営指標 〉

自己資本比率

金融機関の安全性を表す代表的な指標である自己資本比率は、事業者向け貸出などお客さま支援を積極的に行った結果、リスクアセットが増加したことなどにより、前期比0.43ポイント低下の15.10%となりました。

毎期の利益剰余金の積上げや資産良化への取り組みにより、信用金庫に求められる国内基準4%を大幅に上回っています。

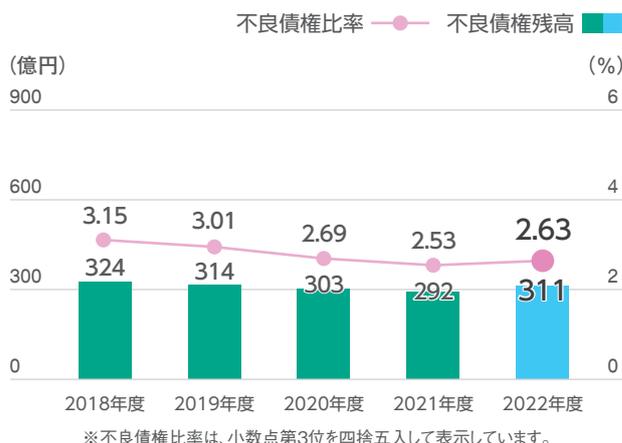
※自己資本比率＝自己資本額÷リスクアセット



不良債権

「事業再生・経営支援活動」を主体に、地域経済への影響を十分に考慮しつつ減少に努めましたが、金融再生法ベースの不良債権額は、前期比19億円増加の311億円、不良債権比率は前期比0.10ポイント上昇の2.63%となりました。

不良債権の91.3%が担保や保証、貸倒引当金でカバーされており、また、当金庫は潤沢な自己資本を備えており、不良債権が経営に与える影響は極めて小さいものとなっています。



純資産

過去からの利益の蓄積である利益剰余金は前期比25億円増加の1,836億円となりましたが、国内外金利の上昇などに伴うその他有価証券評価差額金の控除額増加により、純資産は前期比143億円減少の1,642億円となりました。

